

イケガミが開発した「エアバリア」=石川県小松市で



水が漏れ出ないことを確認した実験の様子
 〓石川県能美市岩本町で(イケガミ提供)

水害防ぐエアバリア

土のうより設置簡単

河川氾濫などによる水害被害を防ぐと、石川県小松市の建材メーカー「イケガミ」が、空気を入れれば三角柱になるビニール製の袋「エアバリア」を開発した。五分ほどで簡単に設置でき、水をせき止める簡易防波堤に。同社によると、空気を利用した製品は国内初といい、池上久貴専務(三)は「水害の被害に苦しむ人が減ってくれば」と話す。(青山直樹)

小松の企業国内初開発

地域未来派

エアバリアは高さ七十センチ、奥行き八十センチ、長さ十メートル。オレンジ色は夜間でも目立つ。下部には縦一列、横十枚のシートが地面に接するよう取り付けられている。内部に重りが備えられ、流れてきた水の下方への水圧も加わるため、全体がその場に固定される仕組み。内部構造に工夫を凝らし、形が崩れにくいという。一基で土のう三百個ほどに相当し、設置は土のうより簡単。空気を抜けば、小さくできるため、スペースを取らず保管できるのも特徴だ。

一基以上を横につなげたり、L字形にしたりすることもでき、地形に合わせられる利点もある。重さは三十五キログラムほどで、空気を入れた後でも移動させることが

可能。同社は半年ほど実験を繰り返して、設置すればほとんど水を通さず、その場から動かないことを確認した。空気を入れれば、十日間ほど使用できるという。一月末に完成し、主に自治体向けに販売、レンタルを勧める。

昨年は台風19号などにより、全国各地で水害被害が相次いだ。池上専務は「土のうと違い、女性でも簡単に素早く設置できる。ぜひ活用してほしい」と話す。問い合わせはイケガミへ。電話0761(24)2322へ。